

文部科学省

防災科学技術研究所 堀内茂木

平成18年3月23日

高度即時的地震情報伝達網実用化プロジェクト(2003-2007)

プロジェクト運営委員会 運営委員長 廣井脩

プロジェクト実施リーダー 堀内茂木、サブリーダー 東田 進也、藤原広

地震波波形処理と提供の研究

防災科研・気象庁(～H20/3)

地震波波形処理と提供の研究
地震情報収集・提供システムの開発
地震情報解析システム及び地震動作確認システムの開発研究
受信側の基礎データシステム開発

利活用に関する実験・調査

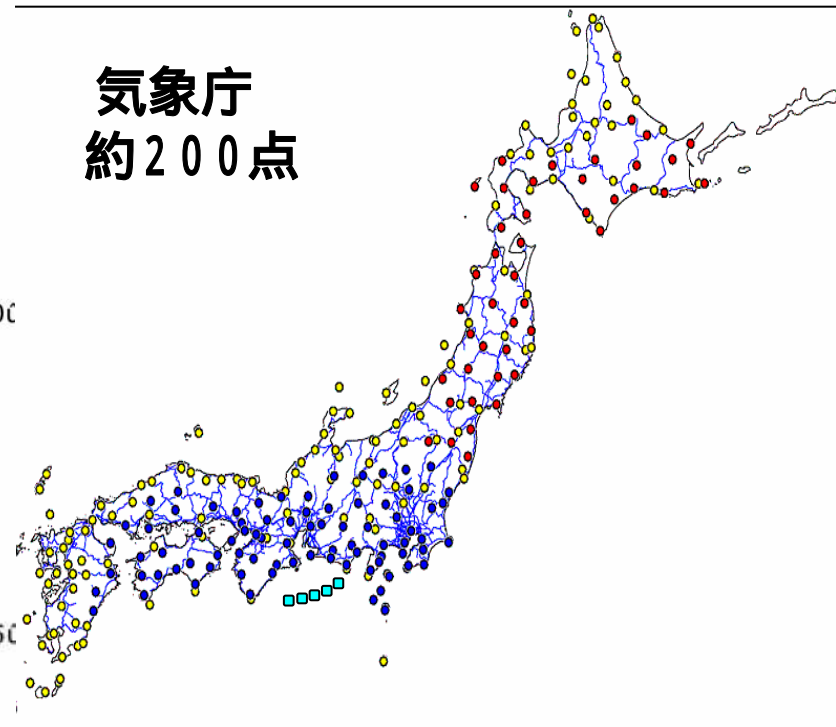
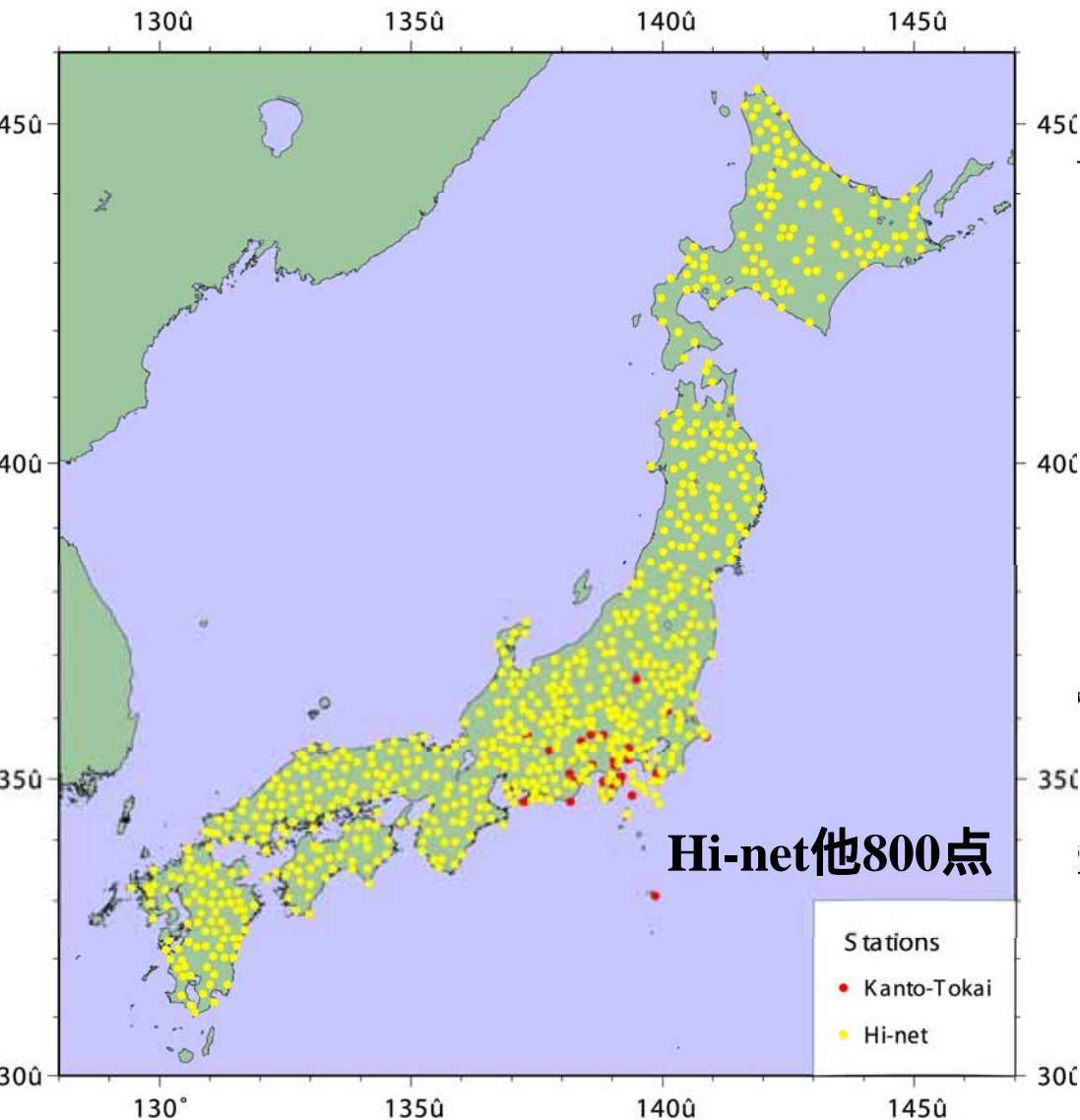
リアルタイム地震情報利用協議会・気象協会・気象庁・防災科研(～H20/3)

リアルタイム地震情報の利活用の実証的調査・研究 (特定非営利活動法人(NPO)リアルタイム地震情報利用協議会に委託)

地震情報の実用化に向け14分野について、実証実験を通じて改善点を抽出する

地震波波形処理と提供の研究

- ・地震観測データ即時処理システムの開発
- ・気象庁次期システムのための即時処理システムの開発
- ・地盤データベースの作成



リアルタイム地震情報の利活用の実証的調査・研究

14分野について、実証実験

防災科学技術研究所

平成15年度～19年度

委託

特定非営利活動法人
リアルタイム地震情報利用協議会

消防

携帯端末

ビル

プラント

エレベータ

FM

ダム

学校

防災無線

情報家電

LPG

医療

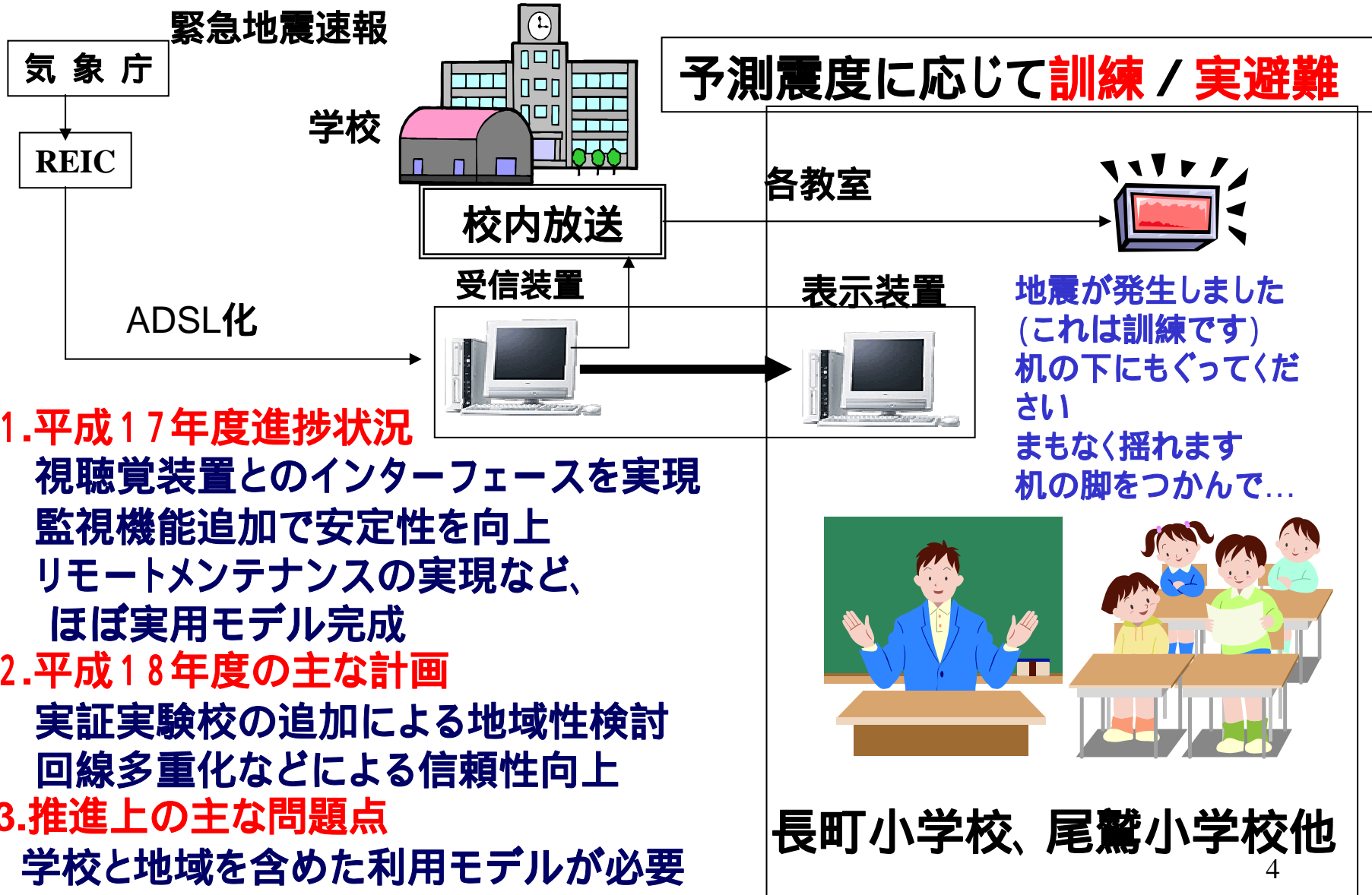
IP電話

請負開発

開発支援企業

ワーキンググループ(WG)などの設置・運用:大学・研究所・
行政機関・関連業界などよりメンバを選定して、
技術的課題の選定、
システム開発の仕様検討、
開発されたプロトタイプの検証評価、
普及促進に向けての標準化など、につき調査・検討

学童及び学校職員のためのリアルタイム地震情報を用いた防災教育支援システムの開発・研究



1.平成17年度進捗状況

視聴覚装置とのインターフェースを実現
監視機能追加で安定性を向上
リモートメンテナンスの実現など、
ほぼ実用モデル完成

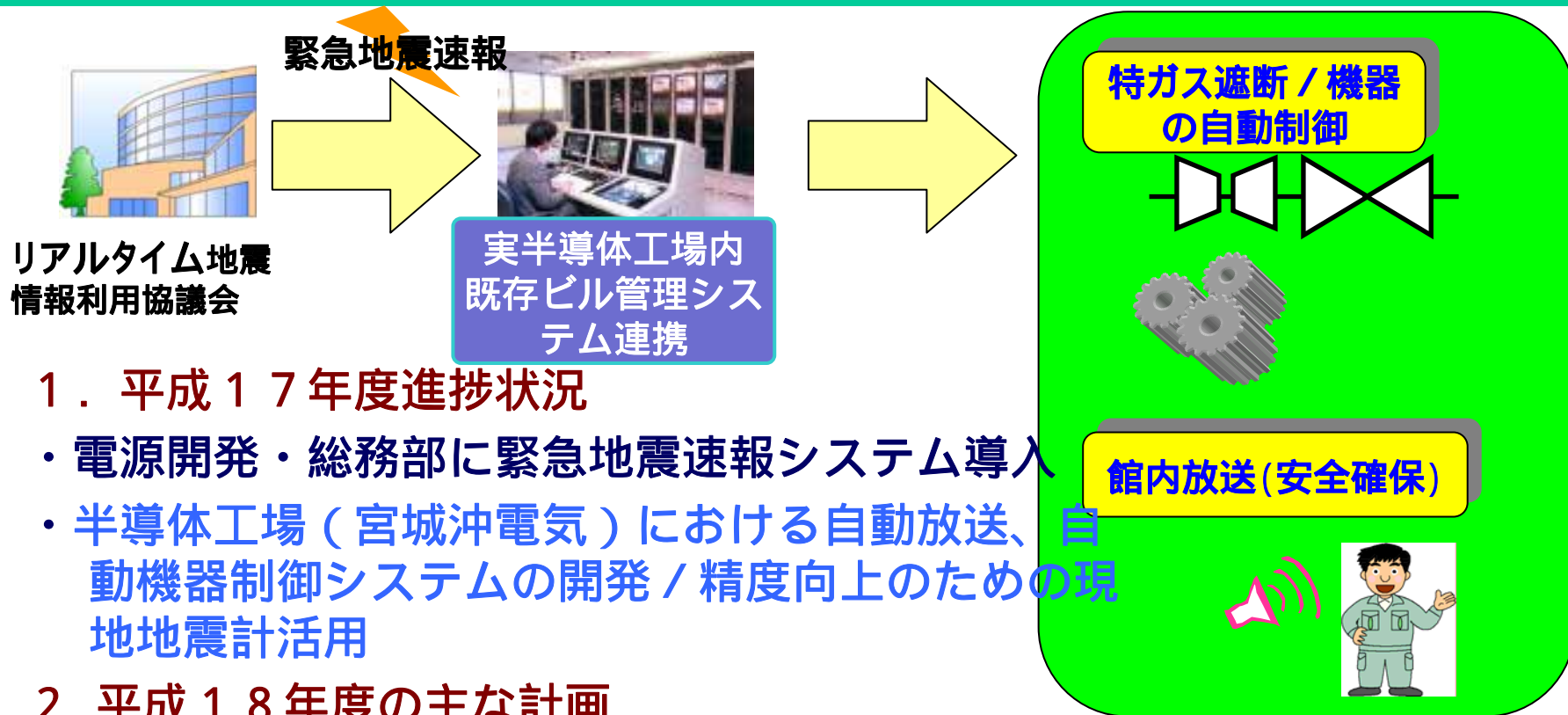
2.平成18年度の主な計画

実証実験校の追加による地域性検討
回線多重化などによる信頼性向上

3.推進上の主な問題点

学校と地域を含めた利用モデルが必要

発電所・工場・プラント向け防災システムの開発・研究



1. 平成17年度進捗状況

- ・ 電源開発・総務部に緊急地震速報システム導入
- ・ 半導体工場（宮城沖電気）における自動放送、自動機器制御システムの開発 / 精度向上のための現地地震計活用

2. 平成18年度の主な計画

- ・ 現地地震計を活用した緊急地震速報の精度向上
直下型地震に対してもかなり対応
- ・ 発電所における実証実験継続

3. 推進上の主な問題点

- ・ 精度向上のための標準プログラムの開発
- ・ データベースの整備・公開

リアルタイム地震情報協議会 緊急地震速報表示システム(まえばれくん)

まえばれくん

05/06/22 16:19:34

リアルタイム
過去地震再生 フォルダ

2004090123
2004090122
2004090121
2004090120
2004090119
185401_東海地震

再生中 再生停止

評価地点
経度 139.68 緯度 35.68
マルチ評価点表示

震源情報
発震日時: 1854/12/23 00:00:00
番号: 1
マグニチュード: 8.4
経度: 137.8
緯度: 34.0
深さ: 0.0
震央距離: 253.6

表示位置
震源
固定

再描画
設定再読み込み

震源

小さな縦揺れ到着時間

評価点 (本社、自宅等)

大きな横揺れ到達時間

推定震度: 到達時間(P): 到達時間(S): マグニチュード:
震度階 震度

4 -7 22 8.4

M = 8.4 D = 0

All Right Reserved, Copyright 特定非営利活動法人リアルタイム地震情報利用協議会 2005

遅延時間0.2秒。IPv6マルチキャストでの配信を行うと、数百万以上のユーザへの配信が可能

・緊急地震速報伝達ピクトグラム



「地震」ピクトグラム



「身を守れ！」ピクトグラム

デザイン: 太田幸夫教授

- ・サイン音「サイン音」を聞く(が聴こえる)ことで瞬時に認識地震が発生したことが分かるサイン音
身の危険を感じるサイン音

